

若手作家 光る感性

若手作家の育成を目的としたコンクール形式の美術展「BIWAKO大賞展」がこのほど、大津市瀬田南大萱町の県立近代美術館で始まった。40歳以下の応募作品から選ばれた上位4点は、出品規定を最大限に生かした大作ぞろい。半立体で青年の若さや輝かしさを際立たせた同市和邇高城の吉田美希子さん(27)の大賞作品などに若い感性が光った。(岡本早苗)

県立近美「BIWAKO大賞展」規定枠広げ

上位4点 大作ぞろい

滋賀の作家を中心とした回を設けた。県内外から290名、高さ240センチの転換を表現した。作品がグループ「滋賀県造形集団」から141点の応募があり、で大賞に次ぐ金賞を得た。大きく、なかなか応募できなかった。赤や青色をした先端のふくらみは、反対側は白くへこみ「opposite(反対)」のタイトル通り表と裏で異なる表情を見せる。「表と裏の関係性、意味、油彩画「誰も見ていない」



髪や指を立体的に表現した大賞作品「Morning Star」(右端)などが並ぶ会場。大津市瀬田南大萱町・県立近代美術館。現代社会の息苦しさを大画面に描いた牧角さんと受賞作品「誰も見ていない」の金賞に輝いた作品の裏側に立つクニトさん。作品は表と裏で異なる表情を見せる。杉の香りが漂うインスタレーションで優秀